

---

# 花火の思い出

烏龍

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

花火の思い出

### 【コード】

N5030H

### 【作者名】

鳥籠

### 【あらすじ】

花火の音を聞いて思い出された、昔の家のこと。

花火の音が聞こえる。

ヒューッ、ドン！

パラパラ……

何回も何回も。

……花火が見たい。

でも、此処からじゃ見えなかった。

だからと言って、見える場所まで行って見ようとも思わない。

二年前までは、自分の家があったのに……。

家族六人で暮らしてた、二階建ての一軒家。その二階の南側が、僕の部屋。

そこから花火が見えた。

遠くの公園の花火が見えた。

今は、血の繋がりもない人が住んでいる。その人が、花火を見てるのかな。

ヒューッ、ドン！

ヒューッ、ドン！

あの部屋から、花火が見たい。

あの家に、みんなで住みたい。

ドン！ パラパラ……。

花火が上がっては、砕け散る。

ドン！

何回も聞こえる花火の音。

何だか悲しい。

でも、気のせいだ。

そう言い聞かせて、静かに本を読む。

窓を開け放ち、音がよく聞こえるようにする。

ドドン！

地に響くような花火の音に驚く。そんな自分の臆病さに笑いながら、本を読む。

そのページが濡れても気にしない。

だって、約束したから。

ヒューッ、ドン！

パラパラ……。

働けるようになったら、たくさん稼いで、たくさん貯めて、またみんなで住む家建てて。みんな約束したから。

僕は頑張る。

その日まで。

泣きながら、花火を見上げたって、平気だから。

笑いながら、花火の音を聞いたって、平気だから。

またみんなで暮らすんだ。

一つ屋根の下に、六人の家族。

南側の小さな部屋で、花火を眺める日々を見つめる。

ヒューッ、ドン！

パラパラ……。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5030h/>

---

花火の思い出

2010年12月19日14時10分発行